

政策	11 豊かな自然環境の保全						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民、職員						
施策が目指す姿	地域の貴重な財産である豊かな自然環境が次世代に引き継がれる。 地球環境にやさしい循環型社会の形成が図られる。 市民一人ひとりによる自発的な環境活動が展開される。						
成果指標	環境保全施策に対する市民満足度...5年間(H30～34)で60%へ増加(現状値56.8%) 環境保全に取り組んでいる市民の割合...5年間(H30～34)で100%達成(現状値97.5%)						
目標達成状況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定				60.00	/
		実績					
	成果指標2 [%]	予定				100.00	/
		実績					
	成果指標3 []	予定					/
		実績					
	成果指標4 []	予定					/
実績							
トータルコスト (千円)	予定	2,155,639	1,862,295	1,833,623	0	0	/
	実績	1,827,214	1,854,027	1,833,623	0	0	
内部評価	貢献度	豊かな自然環境の保全には市民の参加と協力が不可欠であり、市民参加割合が100%達成となれば大きく貢献すると考えられる。					
	達成状況	単位施策の達成状況が順調に推移しているため、目標達成が見込まれる。					
	課題	資源の循環型社会形成のために、市民や企業が積極的に取り組めるよう意識づくりが必要である。					
	取組方針	自然環境の保全は市民・企業の協力が必要であるため、市民・企業へ事業の更なる周知や啓発を実施し、目標達成を目指す。					
外部評価	ごみの不法投棄量について、目標は達成しているが、3年間の推移をみると、年々増加しているため、パトロール等の強化を含め、低減できるよう努めてほしい。市民一人当たりごみ収集量について、大きく目標値を上回っている。コロナ禍により増えたということもあると思われるが、市民として、市がどのように減らしていくのかといった施策もわからないので、市民への周知を含め、目標達成に向け施策の強化をお願いしたい。新エネルギーの推進では、太陽光発電システムへの補助金を終了し、低炭素設備への新たな補助金を開始したとのことなので、これからの電気自動車普及など環境負荷の少ない生活への移行に期待している。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	1101	環境の保全				1,195,207	100
	1102	循環型社会の形成				617,744	100
	1103	新エネルギーの推進				20,672	100

基本施策評価表 補表

施策	11 豊かな自然環境の保全		
区分	妥当性	妥当	豊かな自然環境の保全に対する評価妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業の集約等を実施することによりコスト削減の余地がある。
	受益者負担	適正	受益者負担はないため妥当である。
	上位貢献度	有効	事業を適正に実施することにより施策への貢献度は有効である。
	類似事業の有無	無	自然環境保全の類似事業はない。
	成果向上の余地	有	事業を適正に実施することを推進することにより成果は向上する。
内部評価	貢献度	豊かな自然環境の保全には市民の参加と協力が不可欠であり、市民参加割合が100%達成となれば大きく貢献すると考えられる。	
	達成状況	単位施策の達成状況が順調に推移しているため、目標達成が見込まれる。 コロナ感染対策により一部の事業が縮小となった。	
	課題	資源の循環型社会形成のために、市民や企業が積極的に取り組めるよう意識づくりが必要である。 市民が自治会の活動として、積極的に取り組めるような場の提供を考える。 アフターコロナを見据えたごみ減量化に向けた新たな施策が必要である。	
	取組方針	自然環境の保全は市民・企業の協力が必要であるため、市民・企業へ事業の更なる周知や啓発を実施し、目標達成を目指す。 外国人に対する環境教育(ごみの出し方の講習)を継続して実施する。 次世代エネルギーとして、新たな再生可能エネルギーの事業展開をしてゆく。	